



虫たちのファッションショー

鎌田 美優 小2(米子市)

大きな構図で表現された昆虫たち。はねを色とりどりにパスを重ねることで、躍動感が伝わってくる作品です。夏の太陽をあびて光に反射する虫たちは、もしかするとこんなに色鮮やかに見えるかもしれないとイメージをふくらませてくれる絵です。



おじいちゃんとなしのてきかをしたよ

下石 紳朔 小3(鳥取市)

おじいさんのお手伝いとして、梨の摘果作業をしている一場面です。おじいさんと自分とを画面いっぱいに配置し、自分が摘果しやすいようにと、おじいさんが木の枝を下げている微笑ましい瞬間を絵に表しています。

素直に表現された線描や彩色により、温かな家族の関わり合いがよく伝わってきます。この秋、大きな実りがあったことと思います。

大阪・関西万博で淀江さんこ節を披露したよ

伊藤 裕子 小6(米子市)

柔らかな色使いで、さんこ節を披露する様子が活き活きと描かれた作品です。一人一人の表情に目を向けると、演技に集中していたり、楽し気に歌っていたりとこだわりをもって丁寧に描かれているところも素敵です。

全体の構図にも気を配り、万博会場の柱や設備など多くの物を描きながらも、見る人に狭さを感じさせず、広々とした空間を表現しているところも作品の魅力になっています。





少年の日の思い出

米原 花恵 中1(米子市)

ヘッセの同名小説をもとにした作品でしょうか。小説のストーリーの場面をとらえた挿絵のようにも見えますが、下から上へと流れていく構図や、不安や葛藤を表現したような色あい、確かな描写など、一枚の平面作品としても、とても見どころの多い作品です。周囲を囲む白いワクや、細部にちりばめられたキラキラしたものも、この作品をより一層、物語の世界観に惹きつける要素として重要な役割を果たしているようです。

白昼都鄙

矢間 舜 中2(米子市)

特別賞

空から見下ろした都市と郊外の眺めが、ペンの線だけで細かく描かれています。風景を形づくる建物や樹木などのパーツをきっちり配置しながら、空や海の空間をつくることで、画面にほどよい抜け感や広がりが生まれています。高架橋、風車、工場、電波塔、スタジアム、バーガーショップ、灯台…海には貨物船だけでなく帆船も浮かんでいます。じっくり見るのが楽しい作品で、この世界に住む人々の暮らしを想像したくなります。

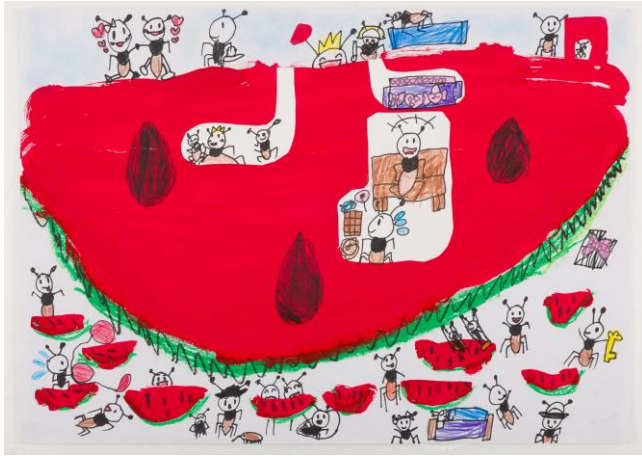


大好きがとまらない！

小椋 凜子 中3(大山町)

一見、水族館の水槽の前で大好きな魚と一緒に満面の笑みを浮かべる少年を描いた作品ですが、人物のほっぺ横を魚が可愛らしく寄り添う姿は、まるで水槽から飛び出してきたかのようなようです。作者が伝えたい「大好き」を現実では起こり得ない状況と色鮮やかな配色、魚と人物に対する細やかかつ大胆な描写を通して伝わってくる作品です。これからも伝えたい思いやこだわりを表現していったほしいと思います。





大きなスイカ みんなでたのしもう

谷本 八濤 小1(鳥取市)

ありたちがスイカの中にもぐりこみ、遊んだり、くつろいだりする楽しい様子が伝わります。



みんなえがおのミニトマト

伊藤 結依 小2(鳥取市)

一生けんめいに育てたミニトマトが実った喜びや観察の様子が色づかいからも伝わってきます。



おしゃれ海ガメ発見!!

河津 紗来 小2(米子市)

絵の具の特長をいかして海や海ガメ、もぐってみつけた喜びが伝わってくる作品です。



ゴールを目指して

谷口 沃 小3(鳥取市)

ボールとゴールと太陽が一直線に並ぶ構図がゴールまでの距離感をうまく表現しています。



お母さんのしゃんしゃん祭

木下 栞里 小4(鳥取市)

お母さんの楽しそうな表情をよく見て丁寧に描いています。踊りの情景が浮かんできます。



池のレストラン

畑中 菖太 小5(鳥取市)

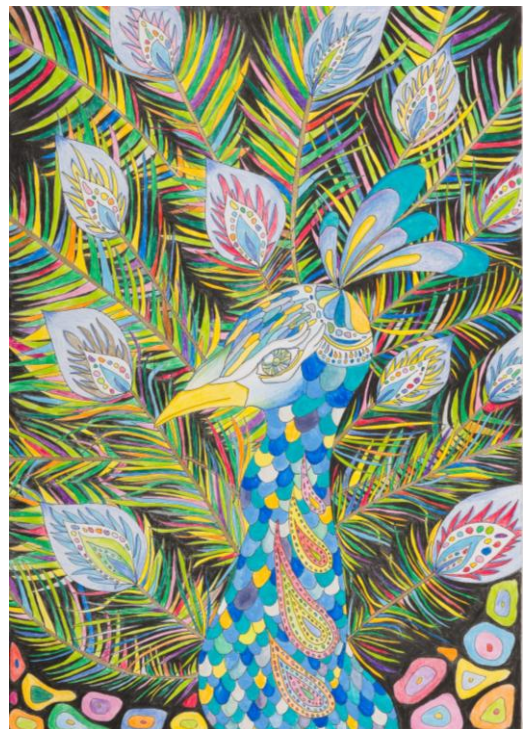
きびしい命の世界を生きぬいてきたタガメが魚を力強くとらえていて迫力があります。



モンスターメリーゴーランド

早川 地紘 小4(境港市)

陽気なモンスターたちが楽しそうに遊んでいます。モンスターが生き生きとした表情です。



クジャク

佐野 七颯 小5(南部町)

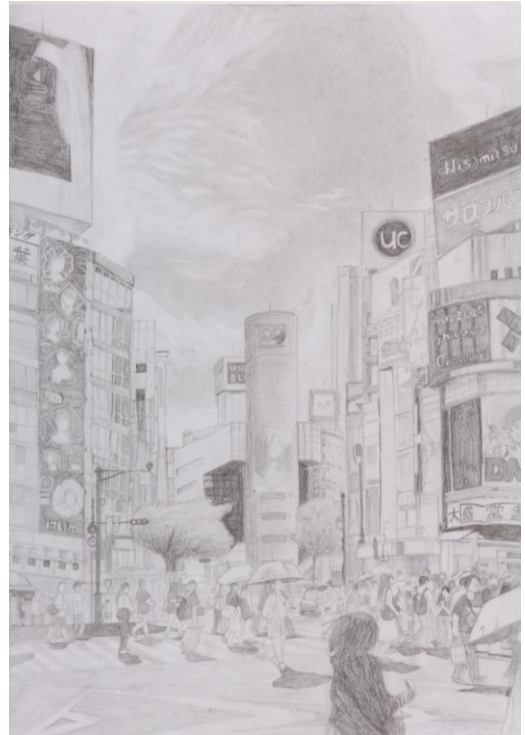
クジャクの美しさにぐっと引き込まれてしまっています。色鉛筆の濃淡のつけ方も絶妙ですね。



牛とともに生きる

大下 徳之助 小5(伯耆町)

大切にお世話され元気に育った健康的な乳牛の様子が、いきいきと描かれています。



ぼくの見た渋谷2025夏

嘉戸 浩明 中1(倉吉市)

渋谷の日常を中学一年生の新鮮な視点で素直にとらえています。色までも伝わってきます。



昼寝

永富 結心 中1(米子市)

落ち着いた配色と間が絶妙で、作者の日常の何気ない風景への愛着が伝わってくるようです。



鳥集戯画～鳥かたまって、鳥となす～

泉 元 中2(鳥取市)

カラーペンで鳥を一羽ずつ丹念に描き、浮世絵調の寄せ絵に仕上げた力作です。



自画像～1番楽しい時～

青江 亮太郎 中2(米子市)

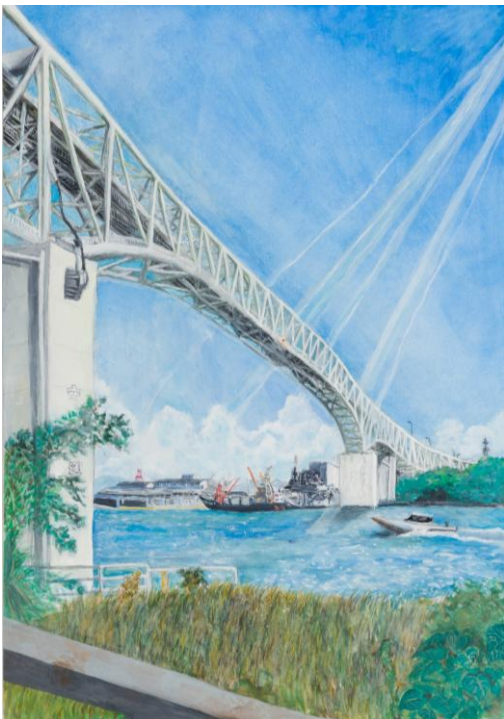
光の効果でぐっと臨場感が増し、気持ちの高揚や、あふれる音の響きも伝わってきます。



始まりの予感

谷垣 千尋 中3(境港市)

光を浴びた蛇が巧みな色づかいで描かれており、動く直前の緊迫感が伝わってきます。



境水道大橋

梅原 晶 中3(境港市)

大橋を見上げた風景。よく晴れた日の空気感が色づかいや構図から伝わってきます。

●小学校

作者の思いや表現したいことが、色や形、構成によって強く伝わってくる優れた作品を各賞に選びました。

低学年は、動物や魚、昆虫など、自然の生き物をのびのびと大きく描いている作品が多くありました。中学年は、体験したことや目にした風景など身近な題材をテーマにし、その時感じたことを形や色に表した作品が目立ちました。高学年は、対象物をよく観察し、絵の具や筆など画材の特性を生かしながら丹念に描いた作品が目を引きました。

今年度もたくさんの応募があり、いろいろな作品と出会うことができました。出来上がりまでの過程がどの作品からも垣間見れ、描くこと、創ることを楽しんでいる子どもたちがたくさんいることに大変喜びを感じました。

●中学校

今年度、出品数はほぼ昨年度並みになりましたが、東・中・西部による出品数の偏りが少し気になりました。一般的に多感だと言われる中学生の時期に、自分の表現に向き合う機会をぜひ持ってほしいと感じました。

さて、今回も様々なもの、ことを対象に多様な作品がありましたが、入賞・入選作品と選外の作品との一番大きな違いは、「表したいものがあるかどうか」だと思います。見た目の上手さ、細かさなどは、その表したいものを表現する手段にすぎません。中学生の皆さんには、普段過ごしていて感じている思いを素直に作品という形で表現してほしいと思います。他の人には恥ずかしくて話せないようなこと、わざわざ話すほどでもないようなこと、自分しか感じてないかもしれないこと、すべて作品なら表現できます。ぜひ、表現してみてください。自分でも気づかなかったような、自分の新たな一面に出会えるかもしれません。

●特別賞 「白昼都鄙」 矢間 舜 中2(米子市)



緻密な構成が光る力作です。これほど多くのモチーフをフリーハンドで描き進めることができるのは、集中力はもちろんですが、作者の頭のなかにはっきりした世界観があるからでしょう。そうして練られた構想を、画面にまとめあげる力が秀逸です。さらに感性を磨き、自分だけの表現を追求していったほしいと思います。

会場にお越しの皆さんにも、この作品をじっくりすみずみまで鑑賞し、いろんな発見をしていただきたいです。